

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 9 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870105669		
法人名	有限会社 歩未		
事業所名	グループホーム あゆみ		
所在地	松山市北久米町9 3 3 番地 1 (電話) 089-990-8831		
管理者	高須賀 幸子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 5 月 15 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 9 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 24 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 16 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 24 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名
要介護 3	8 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 81.8 歳	最低 61 歳	最高 90 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の一面に建つ2階建てホームで、玄関は広く開放的である。ホーム内は白壁と木造白木造りで統一し、明るく清潔である。ゆったりとしたリビング、特殊浴槽、車いす対応トイレなど、利用者にとって安全でくつろげる空間を提供している。センター方式を用い、利用者の生活歴や習慣を大切に、家族や職員が話した内容を反映して立てた介護計画を基にケアにあたっている。職員は、利用者の立場に立って作成した理念に沿って、笑顔で自分らしく楽しく暮らせるよう努め、サービスの向上に意欲的に取り組んでいる。その一つとして、認知症改善と利用者

## 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
評価結果を活かし、時計の設置数を増やして時の見当識へ配慮したり、食事時のBGMの工夫等に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員がそれぞれ項目を分担し、全員が協議して作成している。評価に取り組むことで、日々のケアの振り返りとサービスのあり方を再確認できたと捉えている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
市職員、地域代表者らを招いて、2か月毎に開催している。ホームの行事、職員研修の報告、芸術療法についてなど、ホームの取り組みを議題に挙げ、意見交換しており、会議開催を通して地域との交流が進んできている。参加メンバーが固定的なので、多様な分野からの参加者を得られるよう、今後の工夫が望まれる。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重要事項説明書に苦情申立先を明示し、ホーム内に意見箱を設けている。年2回の家族会開催時や家族の訪問時に要望や意見を聞くよう努めている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
町内会に入会して情報提供してもらい、春、秋の祭りや盆踊り、地域の行事、いきいきサロン等に参加している。夏祭りやクリスマス等ホームの行事に地域の方々を招いている。また、地区の福祉だよりに投稿するなど、様々な機会を捉えて交流や連携を図っている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームあゆみ
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	堀内 千里
評価完了日	平成 20 年 4 月 24 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔で自分らしく楽しい暮らし」 利用者主体の理念を作成するために自分が年老いた時にどうして欲しいかということ念頭に全職員と協議し作成した。  (外部評価) 利用者の立場にたって全職員で話し合い、ホーム独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ケアプラン作成時には、理念に通じたプランを作成するように心がけ、事務室やリビング、生活記録のファイル等に理念をかかげている。  (外部評価) 管理者と職員は理念を共有しつつ、その実践に向けてケアプランを作成し、日々サービスに取り組んでいる。玄関、リビングに理念を掲げ、また生活記録にも記している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会などで説明を行うとともに、家族や地域の方が訪問時に目に触れるように玄関へ理念をかかげている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩に出た際は挨拶をするように心掛け、事務所での夏祭りやクリスマス会の際には、地域の方に参加してもらえるように呼びかけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事、お祭り、いきいきサロン等の地域が主催する行事へ積極的に参加している。地域の広報紙に出ている行事でも参加できるものは参加している。  (外部評価) 町内会に入会し、春と秋の祭りや盆踊り、いきいきサロンなど地域の行事や活動に参加したり、夏祭りやクリスマスなどのホーム行事にも参加してもらい、交流に努めている。地区の新聞「福祉だより」に投稿し、ホームからの発信もしている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 職員などで地域貢献の為に何か役立つことはないか話し合いはしているものの、実際はまだ取り組めていない。	※	認知症への理解を深めて頂くような機会を今後設けていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全スタッフで取り組み、理念に基づいたサービスの提供ができるように前回の評価での改善方策について話し合い、実施するように努めている。福祉便りに職員の介護に対する考え方等を載せていただき、理解してもらえた。  (外部評価) 自己評価は項目を職員全員で分担して取り組み、作成している。外部評価は、結果を活かし時計の設置を増やしたり食事時のBGMなどの改善に取り組んでいる。職員は、自己及び外部評価を日々のケアの振り返りとサービスのあり方の再確認の機会と捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ほぼ2ヶ月に1回会議を行い、サービスの内容について意見を交換している。地域の方々の協力もあり、地域行事への招待があったり、ホーム行事への参加も積極的にしてもらっている。(夏祭り、クリスマス会等)  (外部評価) 市担当者、地域代表者らを招き、2か月毎に開催している。ホームの取り組みや行事を議題に挙げ、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。会議を通じて地域との交流が図られているが、参加メンバーが少なく、やや固定化している。	※	災害への地域住民の協力を得るためにも、PTA役員、消防団員などへの働きかけや開催時間の工夫等を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課、松山市社協の担当者と連絡をとり意見交換会等にも参加し、情報共有に努めている。利用者の苦情等は連絡、相談をさせてもらっている。  (外部評価) 市担当課及び市社会福祉協議会の担当者と連絡をとり、利用者の苦情について相談したり、意見交換会にも参加し、行き来する機会を作っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員については研修に参加している。今のところ制度を利用する対象者はいないが、勉強会に参加して理解しようと努力している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し認識している。定期的な職員会等でミーティングを行い、職員間でも気をつけるように意識づけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、十分に説明を行い、特に大切な項目については丁寧に説明するようにしている。疑問点がある時にはその都度、聞いていただくよう説明している。(来所時などに)		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けている。利用者またはご家族の方が何でも言えるような雰囲気を作り、相談や意見を言っていただき運営、ケアの改善の提案をしてもらっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期報告としては、月1回のあゆみだよりにコメント欄を設け、個々の1カ月の様子を伝えるようにしている。ご家族が来られた時にも、身体状況、生活状況を報告している。  (外部評価) 広報誌を毎月発行し、行事や利用者の暮らしぶりを個々の担当職員のコメントと併せて家族等に報告している。また、利用者の日々の買い物は立替払いし、領収書を添えて毎月報告している。また、家族の訪問時にもその都度、報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回の家族会の時に話し合いを行い、ご家族の意見を出してもらったり、ホーム側の意見を出したり協力もお願いしている。  (外部評価) 重要事項説明書に苦情申し立て先を明示し、ホーム内に意見箱を設けている。年2回の家族会や、家族の訪問時にも要望や意見を聞くよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃よりコミュニケーションを取りながら、職員からの意見や要望を聞くように努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に合わせた、人員配置ができています。緊急時、夜間の呼び出しも出来るように、緊急時連絡網を作っている。職員の急病、急な休みの時も調整出来ている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動は、利用者の負担に成らないようにし、できるだけ、顔馴染みの職員が対応できるように、考慮している。  (外部評価) 職員の異動は殆どないが、新人採用の際にはベテラン職員が3～6か月ついて指導するなど、利用者へのダメージのないケアとスムーズな対応に配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人は、プリセプターシップを取っている。研修に参加できるように、機会を作れるようにしている。  (外部評価) 外部研修の情報を職員全員に知らせ、職員は研修を受講した際には職員会議で報告している。新人教育としてベテラン職員を指導者につけるなど、段階に応じた取り組みをしている。しかし、スケジュール的に研修受講が難しい現状もある。	※	職員が社会の研修、勉強会に参加できる機会を作っていきたい。  ※ 運営者は、ホームの質の向上のためにも、職員を育てる機会の確保を図ることが期待される。今後、仕事の分野ごとに担当職員を決め、勉強会を持つ計画をしているが、内部研修として大いに期待される。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他グループホームとの交流はあるが、勉強会等はない意見交換を行ない、取り組みの参考にしている。  (外部評価) 現在地区内に同業者はないが、他地区のホームとの交流があり、ホームの夏祭りには利用者と共に参加してもらっている。新たにホームが開設することもあり、今後の取り組みが期待される。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフの人数も増やし、希望の休み、連休等が取れるようにしている。又親睦の機会を作り、気分転換が出来るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各職員の勤務状態や健康状態を把握している。ヘルパーさんは、次のステップ、介護福祉士、ケアマネジャー等、資格が取れるように研修への参加や試験に向けての支援を行い、職場に活かせるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時には、利用者から生活していく上での、希望や悩みなどを聞き、フェースシートに書き込み全職員が把握するよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事業所に相談に来られた際、ご家族が不安に思っている事や求めている事などを聞き、理解し受け止めるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に必要な事は何か、本人やご家族とよく話しながら、必要なサービスの紹介をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前にホームの見学や入居開始後は、ご家族にも協力を得て、本人の性格や生活歴を聞き、少しずつ馴染めるように努める。ご家族と連絡を密にし、再々来訪をお願いして不安感の軽減に努める。  (外部評価) 管理者と職員は、本人を訪ねたり、本人及び家族にホームを見学してもらい、徐々に馴染めるよう工夫しながらサービス利用を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者から昔の話を聞いたり、歌を歌ったり、出来る事を一緒にいき感動を共有したり、教えて頂いた時は感謝の言葉をかけている。  (外部評価) 介護しながら一緒に過ごす中で、漢字や諺を教えてもらったり、調理について尋ねたりするなど、利用者を人生の先輩として支え合う関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 暮らしぶりや状態の変化は、随時報告しご家族の思いを理解し、意見や要望を聞き、利用者と一緒に時間が持てるように行事にも、参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) フェースシートを利用し、入所までの生活を理解するよう努めている。ホームの行事にも参加を促し、一緒に過ごしていただけるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時にはゆっくり過ごしていただけるよう居室や応接室にお通ししている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) トラブルにならないようにコミュニケーション介助を行い座る場所なども配慮している。役割分担など調整し、協力しあい作業できるようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院をされた場合など面会に行き、ご家族、利用者から意見や思いの聞き取りをしている。関係を断ち切らないつきあいを大切に、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) フェースシートで好みや希望を聞き対応している。意思の疎通が難しい方は、ご家族、知人から聞き取り希望に添えるよう努めている。  (外部評価) 日々のケアの中で、担当者を中心に利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取り、申し送りノートで職員全員が把握している。困難な場合は、アセスメントのフェースシートから生活歴や、家族や知人から得た情報等から本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴や昔の話など本人、ご家族に聞き、センター方式等に記入し職員で情報を共有している。ご家族に情報を聞いてはいるが、把握しきれていないところもある。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 健康面やその日の気分、機嫌などに考慮し、生活できるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族の面会時には、生活状況を報告し希望、要望を聞きお互いに話し合い計画作成を行っている。カンファレンスが必要な場合は、その都度カンファレンスを行い、対応策などを考え取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) センター方式を取り入れたアセスメントを含め、本人や家族と話し合っ意見やアイデアを取り入れ、また必要に応じたカンファレンスを行い、それらを反映した介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 実施期間終了及び状態変化があった時など見直しを行っている。 <hr/> (外部評価) 3か月ごとに見直しを行い、定期的見直し以前であっても、利用者の状態変化に応じてその都度、本人や家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の暮らしの様子や本人の言葉、排泄状況、食事・水分量、身体的状況も個別に記録している。日々の記録はカルテ等に記録している。介護計画にそって実施したことは結果がどうだったか記入して、次の介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は行っている。医師と相談し、マッサージが必要な利用者は在宅療養マッサージを依頼し利用している。  (外部評価) 結婚式の同行や家族の宿泊など、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地区の集会所の催し事に参加したり、行事のときには近くの高校生ボランティアに協力してもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 希望者は地域のケアマネジャーと連絡を取り、在宅サービス等利用できるよう支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターの集まりに参加し、情報交換をしたり、アドバイスや関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関とは別の病院で受診を希望される場合、医療機関を相談し往診を受けたり、ご家族の協力を得て受診してもらっている。看護師が対応し連携医療機関の確保はしている。  (外部評価) 受診支援を行い、結果を記録してかかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関の医師に相談し、助言や指示をもらうことができている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホーム内に看護職員がおり、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院見舞い、ご家族の希望を聞き相談を行っている。長期入院により重度化しないよう病院と連絡を取り、経過の確認をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ご家族と十分に話し合いながら、本人やご家族の気持ちを大切に、安心感が持てるように対応している。急変時にはすぐに対応してもらえるように医療機関との連携もとれている。  (外部評価) マニュアルを作成し、終末期のあり方について、本人と家族の希望を大切に話し合い、かかりつけ医との連携をとりながら、全員で方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ご家族と十分に話し合い、ご家族の思いを大切にし、職員全員で支えていけるよう情報共有をし対応する。ご家族が安心できるように、かかりつけ医とご家族合同カンファレンスの場を作って意見交換を行う。急変時にすぐ対応できるように医療機関との連携もとれている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所に移られる時には、ケアプランや記録(サマリー)を渡し、日々の様子などの情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーに関わる内容は個別に話す場を作り対応している。入居時、同意書をご家族又は本人に頂き、保険証等は金庫へ記録物は施錠し保管している。個人名の入った書類はシュレッターにかけ処分する。利用者1人1人に合った声かけを心がけている。  (外部評価) 声かけや対応には注意を払い、記録等の個人情報については保管方法の配慮、シュレッターでの処分など適切に管理し、プライバシーの確保に努めている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ゆっくり説明し、選んでもらうなどし1人1人の好みや意思を確認している。外出では体調不良や突発的な事態に備え、帰所用の車を待機している。ADLに合わせ、短時間の外出を計画するなどし、個人の思いを可能な限り実施できるよう計画している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 声かけを行い、利用者1人1人の意志を確認し、自分のペース、好みで生活できるよう支援している。  (外部評価) 管理者と職員は、利用者の立場に立つことを念頭に、楽しくゆったりと過ごせるよう、利用者一人ひとりのペースを大切にその人らしい暮らしの支援を心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 訪問美容師にカットを依頼している。なじみの理容、美容室に行かれる方は、ご家族の協力により実施できている。外出行事では、ご家族の協力を得ながら服を選んだり、決めたりしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自力で摂取できるよう食器や自具を使い好みの食事の形態にし、職員と一緒に食事をする事により、ゆっくり食べれるようにしている。庭の畑で野菜の収穫など利用者で行い、食事への関心につなげている。  (外部評価) 食前に口腔訓練や深呼吸を全員で行い、食欲を促して、利用者と職員と一緒に会話を交わしながら和やかに食事をしている。利用者と一緒に収穫した季節の野菜を献立に取り入れ、食事への関心につなげている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物、おやつ類は本人の好みに応じ提供できている。差し入れがない方にもホームで用意し提供している。なるべく手作りのおやつを出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) できるだけトイレでの排泄を考え、排泄チェック表に記録し、排泄パターンを職員が把握し、さりげなく声かけトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ゆっくり入浴できるよう1対1で入浴している。また入浴を拒む人に対しては、声かけを工夫し安心して入浴できるよう試みている。  (外部評価) 入浴回数は週2回～3回、時間は午前中となっている。入浴が苦手な利用者には、声かけする職員を変えるなど工夫しながら入浴を勧めているが、時間や回数の柔軟な対応への工夫が十分とはいえない。	※	忙しい日々ではあるが、利用者の体調や希望を考慮して、入浴を楽しめるような工夫について検討してみようことを期待する。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 使い慣れた布団や枕など持ってきてもらい、安心して眠れるようにしている。利用者に合わせて日中も居室で休んでもうらなど個々に合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事、畑仕事など利用者が好きな事、やりたい事をできるように声をかけ、自身の役割を持ってもらっている。  (外部評価) 一人ひとりの生活歴や力を活かして、畑仕事や日常の家事の役割を担ってもらったり、元美容師の利用者にイベントの着物の着付けを頼んだりしている。3月から芸術療法を取り入れ、ぬり絵やイメージで絵を描き、コミュニケーションを図っている。イチゴ狩りやひな祭りなど毎月イベントを計画し、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 殆どの利用者が金銭管理が難しいが、小遣い程度は持っている方もいる。一緒に買い物に出かける時は、ホームで立て替えをしている。	※	金銭、通帳等は預からず家族の方に管理をお願いしている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は近所まで散歩に出かけている。買い物、地域の行事にも参加している。  (外部評価) 散歩や買い物などの外出やいきいきサロン等に参加し、戸外に出かける支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 定期的な外出できるよう行事計画を立てている。ご家族とも食事や買い物に行ったりされている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を読んだり電話をする際は、居室でゆっくり時間ととれるようにしている。1人では困難な利用者に関してはマンツーマンでつくようにしている。手紙を書くことはできていない。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 殆どの利用者のご家族がよく面会に来られている。面会者が来所された場合は、応接室や居室など利用者とはゆとりある時間を過ごせる場所を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会議等で拘束のないケアについて話し合う場を作り、知識を高めている。なるべく拘束のないケアに取り組んでいる。	※	職員の意識を高めるように勉強会を行いたい。また、言葉遣いにも配慮していく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が不穏時など職員が1対1でつき対応している。日中玄関は出入り自由だが、常に見守りを行い安全に配慮している。  (外部評価) 日中、玄関は鍵をかけずチャイムと見守りで対応している。外出傾向のある利用者には職員が同行するなどして、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は利用者の傍らで、記録、作業を行い見守りを行っている。夜間は2時間おきに巡回し、すぐ対応できる場で見守りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 自分で管理できる方はしてもらっている。難しい方は、ご家族と相談し、預らせてもらっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故が起こった場合、ヒヤリハットノートに記入して提出し、その都度職員会議などで話し合い事故防止に取り組んでいる。	※	職員1人1人がレベルアップし質の向上を図りたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 新人研修で必ず指導している。マニュアルも作成している。定期的な研修はできていない。	※	定期的に勉強会をするようにしたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回の防災訓練を行っている。地域の方の協力もあり、災害時には連絡すると応援していただけるようになっている。  (外部評価) 消防署の協力で夜間想定を含め年2回の防火訓練を行っている。運営推進会議の参加者の勧めで、災害用グッズを備えている。緊急連絡網、避難訓練のマニュアルを作成し、町内の協力を取り付けてはいるが、実際の訓練は十分とはいえない。	※  ※	防災訓練は行っているが、少しでも早く避難できるように訓練をしていきたい。  利用者を含め、地域の方々の協力を得ながら避難訓練を繰り返し行い、その上でマニュアルを見直しながら緊急時に備えることを望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 日頃よりご家族とコミュニケーションがとれるように努めている。面会時には必ず話しを聞き、緊急を要する場合は連絡をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 職員会議等で周知し変化があった場合、管理者、看護職員に報告し、早めの受診を行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 管理者、看護職員が確認し、整理している。薬剤情報を職員が見れる場所に保管し変更時など説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取、運動を促している。食事に繊維の多い食材を取り入れ提供している。トイレでの排泄ができるように促している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの声かけを行い必要な方には介助し、清潔保持に努めている。義歯洗浄剤を使用している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分量の記入、1人1人に合わせ量を調整している。水分など一度に多く摂取できない方は、時間をあけ促すなど工夫している。定期的に血液検査をし、必要な方には栄養補助のエンシユアを処方してもらっている。  (外部評価) 献立と材料を業者から仕入れ、時には畑で収穫した野菜も取り入れている。食事及び水分摂取量を毎日記録し、嚥下困難な利用者には流動食やゼリーにするなど、一人ひとりが1日を通じて必要量が摂取できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染マニュアルを作成し、速やかに対応できるようにしている。面会の方にも手洗いうがいをお願いしている。インフルエンザの予防接種は、利用者、職員とも行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 冷蔵庫内の清掃、点検は定期的に行っており、食器はその都度洗浄器に入れている。食材の管理にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りには花鉢や椅子を置き、ホームの庭には菜園がある。玄関には表札を掲示し、家庭的な雰囲気作りをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間、食堂には自然の柔らかい光をとり入れている。各部屋の空気のとどみや気になる臭いもなく、換気空調とも適切に管理している。  (外部評価) 玄関は広く、風と景色を取り入れ開放的である。廊下、居間、トイレや浴槽などは広く、気になるにおいもなく清潔でゆったりとした共用空間となっている。外光をレースのカーテンで調節しており、機能面だけでなくインテリアとしての工夫も見られる。テレビを壁に取り付けているため、利用者が行き来しやすい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関周り、洗面所、リビングなどにソファや椅子を置き、利用者が1人になったり、他者と会話ができるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームで用意したものもあるが、居室には装飾品や家具などが持ち込まれ、安心して過ごせる場所を作っている。  (外部評価) テーブルや仏壇、写真や手作りの小物など、それぞれ好みの物や馴染みの物を備えて、画一でなく一人ひとりの好みの居心地よい居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 掃除をする時は窓を開け、十分に換気を行っている。冷暖房の温度調節は、共用空間、居室に行っている。汚物はビニール袋に入れ、できるだけ戸外に出している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、浴室、階段等の要所要所に手すりを設備している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレ、浴室は明示して居室には名札をつけている。迷う時にはさりげなく声かけをしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑やプランターを置き、天気のいい日は利用者と一緒に水やり、草引き、種まき、野菜の収穫などを行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	家族の方から情報を得て、フェースシート等に記入している。利用者さんからその都度、意向や希望を確認するようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎日は難しいが外に散歩に出たり、一緒にお茶を飲んだりしながら利用者の方とゆっくり関わりながら話を聞くようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分のペースで動ける人、訴えがある人はよいが訴えのない人は職員側のペースで動いてもらっていることがある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分の仕事になっている事は(アイロンかけ)いきいきとすすんでされるようになった。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外の散歩などは出れるが行きたいところへの支援は十分に出来ていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックを行っている。異常時、様子がおかしい時は看護師や主治医に相談し対応している。受診時には必ず家族に報告している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	具合の悪い方は早めに受診を行っている。体調に合わせて居室で休んでもらっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には家族から話を聞き、何でも言ってもらえるように努めている。こちらからも状況を話している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	友人の方も時々面会に来られている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事などに参加はしているが地域の方、近隣の方との関わりがまだ少ない。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は笑顔で働いている。困ったことや意見もミーティングや個別に話し合いながら改善し仕事を行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	訴えのある方は出来るだけ希望に添えるよう努めているが一人一人が満足できるサービスにはなっていないこともある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	おおむねは満足されていると思うが遠慮されながら言われている方もいると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・ 建物はゆったりとスペースがとってある。
- ・ 建物の周りは田園に囲まれ、のんびりとした時間が過ごせる。
- ・ 畑もありその季節の野菜が収穫できるように、利用者の方と共に作業が出来るようにしている。
- ・ 地域の行事の参加、いきいきサロンに参加しなるべく地域の方と交流を持つように努力しています。



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

## I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

## IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

## V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

## ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームあゆみ

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏名

高須賀 幸子

評価完了日

平成 20 年 4 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔で自分らしく楽しい暮らし」 利用者主体の理念を作成するために自分が年老いた時にどうして欲しいかということを念頭に全職員と協議し作成した。  (外部評価) 利用者の立場にたって全職員で話し合い、ホーム独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ケアプラン作成時には、理念に通じたプランを作成するように心がけ、事務室やリビング、生活記録のファイル等に理念をかかっている。  (外部評価) 管理者と職員は理念を共有しつつ、その実践に向けてケアプランを作成し、日々サービスに取り組んでいる。玄関、リビングに理念を掲げ、また生活記録にも記している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会などで説明を行うとともに、家族や地域の方が訪問時に目に触れるように玄関へ理念をかかっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩に出た際は挨拶をするように心掛け、事務所での夏祭りやクリスマス会の際には、地域の方に参加してもらえるように呼びかけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事、お祭り、いきいきサロン等の地域が主催する行事へ積極的に参加している。地域の広報紙に出ている行事でも参加できるものは参加している。  (外部評価) 町内会に入会し、春と秋の祭りや盆踊り、いきいきサロンなど地域の行事や活動に参加したり、夏祭りやクリスマスなどのホーム行事にも参加してもらい、交流に努めている。地区の新聞「福祉だより」に投稿し、ホームからの発信もしている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 職員などで地域貢献の為に何か役立つことはないか話し合いはしているものの、実際はまだ取り組めていない。	※	認知症への理解を深めて頂くような機会を今後設けていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全スタッフで取り組み、理念に基づいたサービスの提供ができるように前回の評価での改善方策について話し合い、実施するように努めている。福祉便りに職員の介護に対する考え方を載せていただき、理解してもらえた。  (外部評価) 自己評価は項目を職員全員で分担して取り組み、作成している。外部評価は、結果を活かし時計の設置を増やしたり食事時のBGMなどの改善に取り組んでいる。職員は、自己及び外部評価を日々のケアの振り返りとサービスのあり方の再確認の機会と捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ほぼ2ヶ月に1回会議を行い、サービスの内容について意見を交換している。地域の方々の協力もあり、地域行事への招待があったり、ホーム行事への参加も積極的にしてもらっている。(夏祭り、クリスマス会等)		
			(外部評価) 市担当者、地域代表者らを招き、2か月毎に開催している。ホームの取り組みや行事を議題に挙げ、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。会議を通じて地域との交流が図られているが、参加メンバーが少なく、やや固定化している。	※	災害への地域住民の協力を得るためにも、PTA役員、消防団員などへの働きかけや開催時間の工夫等を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課、松山市社協の担当者と連絡を取り意見交換会等にも参加し、情報共有に努めている。利用者さんの苦情等は連絡、相談をさせてもらっている。		
			(外部評価) 市担当課及び市社会福祉協議会の担当者と連絡を取り、利用者の苦情について相談したり、意見交換会にも参加し、行き来する機会を作っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員については研修に参加している。今のところ制度を利用する対象者はいないが、勉強会に参加して理解しようと努力している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し認識している。定期的な職員会等でミーティングを行い、職員間でも気をつけるように意識づけしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、十分に説明を行い、特に大切な項目については丁寧に説明するようにしている。疑問点がある時にはその都度、聞いていただくよう説明している。(来所時などに)		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けている。利用者またはご家族の方が何でも言えるような雰囲気を作り、相談や意見を言っていただき運営、ケアの改善の提案をしてもらっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期報告としては、月1回のあゆみだよりにコメント欄を設け、個々の1カ月の様子を伝えるようにしている。ご家族が来られた時にも、身体状況、生活状況を報告している。  (外部評価) 広報誌を毎月発行し、行事や利用者の暮らしぶりを個々の担当職員のコメントと併せて家族等に報告している。また、利用者の日々の買い物は立替払いし、領収書を添えて毎月報告している。また、家族の訪問時にもその都度、報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回の家族会の時に話し合いを行い、ご家族の意見を出してもらったり、ホーム側の意見を出したり協力もお願いしている。  (外部評価) 重要事項説明書に苦情申し立て先を明示し、ホーム内に意見箱を設けている。年2回の家族会や、家族の訪問時にも要望や意見を聞くよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃よりコミュニケーションを取りながら、職員からの意見や要望を聞くように努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に合わせた、人員配置ができています。緊急時、夜間の呼び出しも出来るように、緊急時連絡網を作っている。職員の急病、急な休みの時も調整出来ている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動は、利用者の負担にならないようにし、できるだけ、顔馴染みの職員が対応できるように、考慮している。  (外部評価) 職員の異動は殆どないが、新人採用の際にはベテラン職員が3～6か月ついて指導するなど、利用者へのダメージのないケアとスムーズな対応に配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人は、プリセプターシップを取っている。研修に参加できるように、機会を作れるようにしている。  (外部評価) 外部研修の情報を職員全員に知らせ、職員は研修を受講した際には職員会議で報告している。新人教育としてベテラン職員を指導者につけるなど、段階に応じた取り組みをしている。しかし、スケジュール的に研修受講が難しい現状もある。	※	職員が研修、勉強会に参加できる機会を作っていきたい。  ※ 運営者は、ホームの質の向上のためにも、職員を育てる機会の確保を図ることが期待される。今後、仕事の分野ごとに担当職員を決め、勉強会を持つ計画をしているが、内部研修として大いに期待される。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他グループホームとの交流はあるが、勉強会等はしていない意見交換を行ない取り組みの参考にしている。  (外部評価) 現在地区内に同業者はないが、他地区のホームとの交流があり、ホームの夏祭りには利用者と共に参加してもらっている。新たにホームが開設することもあり、今後の取り組みが期待される。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフの人数も増やし、希望の休み、連休等が取れるようにしている。又親睦の機会を作り、気分転換が出来るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各職員の勤務状態や健康状態を把握している。ヘルパーさんは、次のステップ、介護福祉士、ケアマネージャー等、資格が取れるように研修への参加や試験に向けての支援を行い、職場に活かせるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時には、利用者から生活していく上での、希望や悩みなどを聞き、フェースシートに書き込み全職員が把握するよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事業所に相談に来られた際、ご家族が不安に思っている事や求めている事などを聞き、理解し受け止めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に必要な事は何か、本人やご家族とよく話しながら、必要なサービスの紹介をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前にホームの見学や入居開始後は、ご家族にも協力を得て、本人の性格や生活歴を聞き、少しずつ馴染めるように努める。ご家族と連絡を密にし、再々来訪し不安感の軽減に努める。  (外部評価) 管理者と職員は、本人を訪ねたり、本人及び家族にホームを見学してもらい、徐々に馴染めるよう工夫しながらサービス利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者から昔の話を聞いたり、歌を歌ったり出来る事を一緒に行い感動を共有したり教えて頂いた時は感謝の言葉をかけている。  (外部評価) 介護しながら一緒に過ごす中で、漢字や諺を教えてもらったり、調理について尋ねたりするなど、利用者を人生の先輩として支え合う関係を築いている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 暮らしぶりや状態の変化は、随時報告しご家族の思いを理解し、意見や要望を聞き、利用者と一緒に時間が持てるように行事にも、参加していただいている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族の面会時など、ご家族・本人だけで話す時もあるが、職員も一緒に話をし、より良い関係が築けるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人の方の面会もあり、遠方で面会に来られない方からの電話が出来るように、対応している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が間に入り、レク等コミュニケーションがとれるよう配慮し、利用者同士が関わり合えるよう支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所後、入居時の写真をCDにまとめ提供している。また、退所後もご家族の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりに担当者がおり希望や意見を聞き、それを他の職員に伝え、把握できるようにしている。  (外部評価) 日々のケアの中で、担当者を中心に利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取り、申し送りノートで職員全員が把握している。困難な場合は、アセスメントのフェイスシートから生活歴や、家族や知人から得た情報等から本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を取り入れ、本人・ご家族からの意見を聞きながら記入し、把握できるようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日、生活記録を書いており、出勤時にはそれを見てその人の現状を把握し無理のない生活の支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族の面会時等に、入居者の生活状況を報告し、希望・要望をお互いに話し、又、カンファレンス時に話し合いを行い、介護計画を作成している。  (外部評価) センター方式を取り入れたアセスメントを含め、本人や家族と話し合っ意見やアイデアを取り入れ、また必要に応じたカンファレンスを行い、それらを反映した介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間は3ヶ月とし、変化があった時などは随時、見直しのカンファレンスを行い、現状に即した計画を作成している。  (外部評価) 3か月ごとに見直しを行い、定期的見直し以前であっても、利用者の状態変化に応じてその都度、本人や家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録は生活記録に記録している。気づき、工夫は申し送りノートに記入し共有できるように努めている。	※	気づきノートの活用を積極的にできるようにしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は行っている。医師と相談し、マッサージが必要な利用者は在宅療養マッサージを依頼し利用している。  (外部評価) 結婚式の同行や家族の宿泊など、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 公民館で行われているイキイキサロンへの参加、地域の夏祭りへの参加、またホームの夏祭りへの地域の方々の協力をいただいている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向と主治医の同意を得て、療養マッサージを受けられている方もいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議を活用し情報提供をいただいたり、相談に伺い助言をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 連携医療機関による往診、必要時には病院への通院も行い、ご家族へ報告を行っている。  (外部評価) 受診支援を行い、結果を記録してかかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 連携医療機関と相談をしながら、必要時には専門医を受診するようにしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師が配置されており連携医療機関への連絡・相談もスムーズに行われている。看護職と介護職の連携もとれている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院へ訪問し、状況確認を行っている。退院時には、診療情報を書面で提供していただき、今後の支援に役立っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合には、ご家族と医師・ホームで話し合い対応方法等を検討している。  (外部評価) マニュアルを作成し、終末期のあり方について、本人と家族の希望を大切に話し合い、かかりつけ医との連携をとりながら、全員で方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ご家族の方と十分に話し合い、急変時にもあわてず対応できるよう、日々の状態変化に気を付け、主治医の指示をあおいでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 在宅での担当CMやかかわっていた事業所、病院やご家族からなるべく沢山の情報を、いただくようになっている。また、ご家族にはセンター方式シートを渡し、わかる所を記入していただくようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者さんに合わせた声掛け対応を心がけているが十分ではない。  (外部評価) 声かけや対応には注意を払い、記録等の個人情報については保管方法の配慮、シュレッダーでの処分など適切に管理し、プライバシーの確保に努めている。	※	排泄声掛けには特に注意して全員で取り組みたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) レクリエーションや散歩の参加は、できれば全員で行いたいのが、無理じいせず、自由に参加してもらっている。声掛けは、常に全員に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせるように努めているが、リハビリ体操や散歩などは声掛けをして、ADLが低下しないようなるべく参加していただいている。  (外部評価) 管理者と職員は、利用者の立場に立つことを念頭に、楽しくゆったりと過ごせるよう、利用者一人ひとりのペースを大切にその人らしい暮らしの支援を心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 普段から化粧品を持たれている方にはお化粧品をしてもらっている。夏祭りには、女性全員お化粧品をして、浴衣を着て参加された。理・美容は家族が同行される方と、ホームに来る美容師にってもらう方に分かれている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各々の好きな物にも気を配り、下拵えもできる方には手伝っていただいている。キザミ食・ミキサー食も利用者の方の体調に合わせて対応している。  (外部評価) 食前に口腔訓練や深呼吸を全員で行い、食欲を促して、利用者と職員と一緒に会話を交わしながら和やかに食事をしている。利用者と一緒に収穫した季節の野菜を献立に取り入れ、食事への関心につなげている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物の種類温度等、その都度聞きながら対応している。おやつは一人ひとりの身体状況に合わせて、食べやすくしたり、制限食の方には範囲内で食べられる物を選んで出している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表により時間のあいてる方には声掛け誘導している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日は決まっている。入居者のその日の体調や、個々の入り方により順番を考慮している。  (外部評価) 入浴回数は週2回～3回、時間は午前中となっている。入浴が苦手な利用者には、声かけする職員を変えるなど工夫しながら入浴を勧めているが、時間や回数の柔軟な対応への工夫が十分とはいえない。	※	忙しい日々ではあるが、利用者の体調や希望を考慮して、入浴を楽しめるような工夫について検討してみようことを期待する。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況により居室誘導して休んでいただいたり、リビングのソファで横になっていただいたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 朝の掃除は、全員がいっしょにモップ掛けを行っている。掃除後のティータイムを楽しみにされている。個々に、洗濯物たたみ・アイロンかけ裁縫・食事準備・畑仕事など役割を持ち、外気浴も兼ね散歩にも出かけている。  (外部評価) 一人ひとりの生活歴や力を活かして、畑仕事や日常の家事の役割を担ってもらったり、元美容師の利用者にイベントの着物の着付けを頼んだりしている。3月から芸術療法を取り入れ、ぬり絵やイメージで絵を描き、コミュニケーションを図っている。イチゴ狩りやひな祭りなど毎月イベントを計画し、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方は自分で持ち、買物に行く時には職員の手を借り支払っている。自己管理できない方は、買物時に職員が持ち、支払っている。	※	松山市の指導により、金銭トラブル予防のため金銭は預からず、ホームの立替になっている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望には、なかなか添えられないが、天気の良い日には、散歩に出かけたり庭の畑で収穫作業や苗植え・草引き等を行っている。体操・ティータイムも庭で行うこともある。  (外部評価) 散歩や買い物などの外出やいきいきサロン等に参加し、戸外に出かける支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 遠出が可能な利用者の方は、時々、遠くの行事に出掛けたりしている。家族と食事に出かける方、買物に行かれる方もいる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたいと言われる方には、番号を押す事だけ、スタッフがして話をさせていただいている。外からの電話も、本人に渡して話してさせていただいている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ご家族に対しても、いつでも面会できる事伝え、どなたでも面会していただくよう入居時に伝えている。面会者と利用者が話しやすいスペースを提供し、ゆっくり話ができるよう飲み物をお出しして、過ごしていただいている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、どうしても転倒の危険がある場合家族の承諾を得て、ベッド柵を行う事があった。	※	ベッドではなく布団で休んでいただき拘束をしないケアに取り組んでいる。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中玄関や2階の出入口のドアも鍵をかけないでドアベルで対応している。居室については、利用者によって鍵をかけて、居室で過ごされる方もいる。  (外部評価) 日中、玄関は鍵をかけずチャイムと見守りで対応している。外出傾向のある利用者には職員が同行するなどして、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中居室で過ごされている方は時々様子を見に行き、転倒の危険がある利用者は同行し見守りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 事故につながる危険の高いものは事務室や倉庫に置いてあり、その都度出して使用し、安全を心掛けている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 担当者会議で意見を出し合い、その人に合った事故防止対策を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救急隊による指導を受けているが、新しいスタッフ（4/1）については時期を検討中である。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に利用者も交えて訓練をする様計画を立て、実施している。  (外部評価) 消防署の協力で夜間想定を含め年2回の防火訓練を行っている。運営推進会議の参加者の勧めで、災害用グッズを備えている。緊急連絡網、避難訓練のマニュアルを作成し、町内の協力を取り付けてはいるが、実際の訓練は十分とはいえない。	※	利用者を含め、地域の方々の協力を得ながら避難訓練を繰り返し行い、その上でマニュアルを見直しながら緊急時に備えることを望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 面会時に話を聞き、家族ともコミュニケーションがとれるよう努めている。緊急を要する場合には、すぐ連絡がとれるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 利用者に常に気を配り小さな変化も日々、申し送り各スタッフに共有しすぐ受診をしたり等、対応できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 注意を要する薬剤は看護師に指導を仰ぎ、日々の服薬は薬ケースを活用、薬の変更や用法が変わった時はレシピに目を通す様、申し送りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分量のチェックをし一人ひとりの排便パターンを認識し、なるべく自排便が行えるように水分を多く摂ってもらったり、外に出て散歩をしたりなど、体を動かすように声掛けしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛け誘導を行い、口腔内の清潔保持に務めている。毎週日曜日の夜は、入れ歯洗浄剤を使用し、入れ歯の清潔が保てるようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態・習慣等に合わせて、食事形態量・水分量を考えて配膳している。食事量・水分量は毎日記録し、把握できるようにしている。  (外部評価) 献立と材料を業者から仕入れ、時には畑で収穫した野菜も取り入れている。食事及び水分摂取量を毎日記録し、嚥下困難な利用者には流動食やゼリーにするなど、一人ひとりが1日を通じて必要量が摂取できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に関するマニュアルを作成し、手洗いうがいの声掛けを行い、徹底している。外部からの感染を防ぐ為、玄関には消毒液を設置し、訪問の方にも理解していただけるように、取り組んでいる。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は業者から3食分の仕入れをして、食品管理は食材ごとに分けて保存している。食器などは、毎食食器洗浄機・乾燥機にかけて消毒し清潔を保てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中の出入りは自由にでき、階段とスロープで安全に玄関に入れるようにしている。利用者さん一人ひとりが植えた、プランターの花を並べている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 木造建築で落ち着いた空間になっている。トイレ・浴室は車椅子でもゆったり入れるスペースがとられている。  (外部評価) 玄関は広く、風と景色を取り入れ開放的である。廊下、居間、トイレや浴槽などは広く、気になるにおいもなく清潔でゆったりとした共用空間となっている。外光をレースのカーテンで調節しており、機能面だけでなくインテリアとしての工夫も見られる。テレビを壁に取り付けているため、利用者が行き来しやすい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングと洗面所前にソファを設置し、疲れた時にもゆったり座れるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンス類はホームが備え付けてあるが、鏡台・仏壇・机・椅子等、使い慣れたものを居室に設置されている。  (外部評価) テーブルや仏壇、写真や手作りの小物など、それぞれ好みの物や馴染みの物を備えて、画一でなく一人ひとりの好みの居心地よい居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝の掃除の時は窓を開けて行っている。トイレは換気扇と窓の開閉により調整している。汚物は、一定量になれば、戸外の汚物用ゴミ入れに入れている。冷暖房の調整もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下・浴室には手すりを設置している。廊下幅を広くしており、車椅子同士でも安全にすれ違いができる。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室入口には、ご本人の写真入りの名札をつけている。時に自分の部屋がわからなくなったりするが、声掛けし同行したりしている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭の一部に畑を作り、農作業を楽しんでいる。一人一鉢としてプランターに花を植えてもらい、玄関入口に並べて世話をしてもらっている。さくらんぼ・りんご・レモン等実のなる木を植えて収穫を楽しめるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	ケアプランをたて、それに添って支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	一緒にお茶を飲んだりしながら、できるだけ利用者と話ができるようにしている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	居室への行き来も自由にでき、行事等の参加も本人の意思を尊重している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者個々の得意な事には、生き生きとした表情が見られるが、興味ない事に対しては、見られない時もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の行きたい所に、度々連れて行く事は出来ないが、近辺の散歩には出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日、バイタルチェックを行い、異常時には、すぐ看護師や主治医に報告・相談をし指示をあおいで対応している。受診前後に、必ず家族に連絡・報告している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者・職員と一緒に生活する中で信頼関係を築き要望に応えられるよう支援し、安心して暮らせるよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	年2回家族会議を開き、意見交換をしている。参加出来なかったご家族には、連絡し意見を求めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	行事の時、2ヶ月に1回程ボランティアの人に来て頂き交流を深めている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域への夏祭り参加声掛けにより参加したり、ホームの夏祭りやクリスマスに、地域の方に参加して頂いている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の情報交換をよくしている。介護技術・知識が向上するように、意見交換している。笑顔が多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ふだんの会話、やりとりから利用者の思いを聞き、よりよい方向になるよう心がけている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ホームでの出来事、生活ぶりを定期的に便りや電話にて全ての利用者ご家族に伝えている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- 利用者とは相談しながら、イチゴ狩り、花見、買物に出掛けている。
- 季節に応じた催しを計画して、(最低月に1回)、利用者が楽しんでもらえる様に心掛けている。
- 毎日のリハビリ体操や、週1回の芸術療法を取り入れる事で、身体機能の低下の抑止に努めている。